

(132) 栃木県鹿沼市の鹿ノ入鉱山

参考文献(1)、(2)を手引きに探査を行い、現地を確認した。東加蘇鉱山について下調べをしていたら、文献(1)に、東加蘇鉱山と一緒に、鹿ノ入鉱山も位置図付きで紹介されていた。が、位置図は余りにも大雑把なので探査は無理と思っていた。しかし、文献(2)には、鹿ノ入鉱山の位置図はなかったが、鹿ノ入地区内での鉱山の位置が、詳細に文章で記述されていた。その文章を抜き出す。「・・・鹿ノ入部落の神社の背後の山に約60m上がったところに位置する鉱床である。鹿ノ入橋の南西500m。花崗岩との接触部に極めて近い鉱床で、下盤には花崗岩の見られるところがあった。鉱石は美紅色のばら輝石を主とし、高品位の部分には褐黒色でガラス光沢の強いtephroiteがみられた・・・」これならば、探査は容易であろう。最新の地形図で、文章に従って、鉱山位置を確かめようとした。目印となる「鹿ノ入橋」は地形図中にはあったが、肝心の「神社」が、地形図中になのである。文献は40年以上前に書かれている。現地を訪問したのは、それ以上昔のこととなる。さて、肝心の「鹿ノ入橋」自身は、現在存在している「鹿ノ入橋」そのものなのであるか？橋の老朽化に伴い、違う箇所に新橋を設置する場合がある。また、現地形図中には、予想外のところに神社記号がある(図2中の右端)。どうなっているのだろうか、思案に暮れた。神社は昔はあったが、廃社されたのであろうか？そうだ、鹿沼図書館で郷土資料を当たってみようと考えた。鉱山のあった、その市町村の図書館には、その地域の鉱山に関する資料がある場合が、希にあるからである。鹿ノ入地区の生活風俗を記述している本中に、鹿ノ入地区を包含した国土地理院の古い地形図も掲載されていた。ビックリしたことに、その地形図中の鹿ノ入地区の中心あたりに神社記号があるのを見つけた。また、インターネットで鹿ノ入地区の情報を見ると、この神社の名前は「姫宮神社」といい、現在も住民達による神社祭が行われていることもわかり、神社の写真も掲載されていた。

1回目の探査に出かけた。鹿ノ入橋、姫宮神社と確認は取れたが、2月の大雪の残雪が未だ残っており、鉱山のある山中への農道・林道を見つけることはできなかった。また、このように雪があると、現地での表面観察はほぼ不可能である。神社の存在を確認できたことを成果として帰宅した。雪がなくなったときに再探査を行おう。

数回探査を繰り返した。その時、現地で出会った年配の女性に聞いてみると。嫁いできたものなので、鉱山については知らないとの返事を貰った。次の回には、道沿いの屋根の修理をしていた、年配の男性と話をすることができた。鉱山があったらしいが、場所は山の中であるくらいしか分からないとのこと。ただ、この当たり一帯には沢山の鉱山があったよ、との助言も貰った。

木々の多い山中に入ると、自分が現在どこにいるのか、不確かになる場合が多い。地形図、高度計は持参はしている。が、GPSは空を隠している木々のために、機能しない。地形図も、ところによっては、現地の地形とあっていない場合もある。そうやこうや、何回か探査をした結果、マンガン鉱が点在しているところを見つけ、鹿ノ入鉱山跡を確認することができた。

現地への経路は次の通りである。鹿沼市中から14号を北西に進む。鹿ノ入地区に入ると、進行方向左側に、大芦川に架かっている橋が見えてくる(写真1)。この橋を渡るが、橋幅は車1台分しかない。手前で十分に減速してから、左折する。図1、図2に描かれているように、橋を渡ると村道は右に曲がってから、左に曲がっている。地形図は、この所の現状に対応していない。時のラグがある。橋を右折してから、直進していくと、直ぐ左側に公園の駐車場がある。ここに車を留め置ける。現地には、村道を歩いて行くことになるが、村道は殆ど車を長時間止められるような幅はない。駐車場を利用しよう。

駐車場からは村道を歩いて、神社に向かう。鉱山跡は図2から分かるように、神社の西側の山中にある。その間は、緩い斜面の農地となっている。かつ、防畜柵が張り巡らされている。現地へのショートカットは厳禁である。神社のところからは、図2に描いた黒曲線に従って、迂回して現地へ行く。村道から農道への入口は写真3で紹介している。

探査日 2014年3月

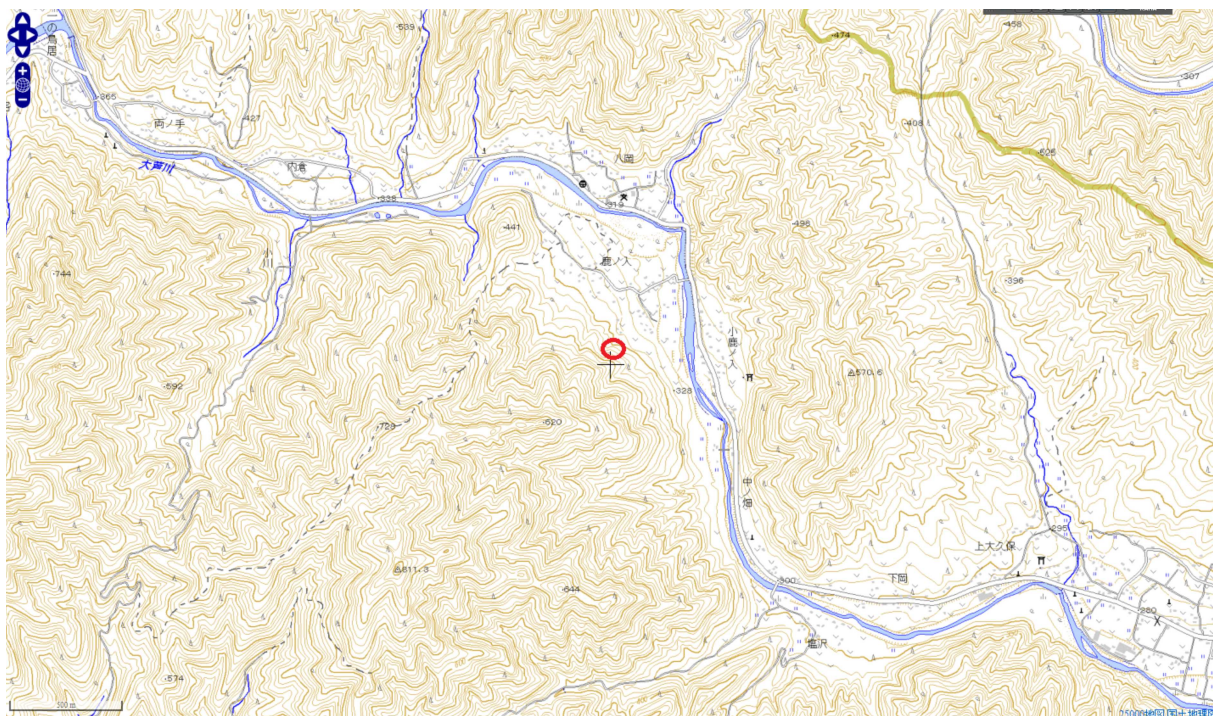


図1 Y a h o o の地図サービスより複写掲載。赤丸当たりが鹿ノ入鉱山跡。

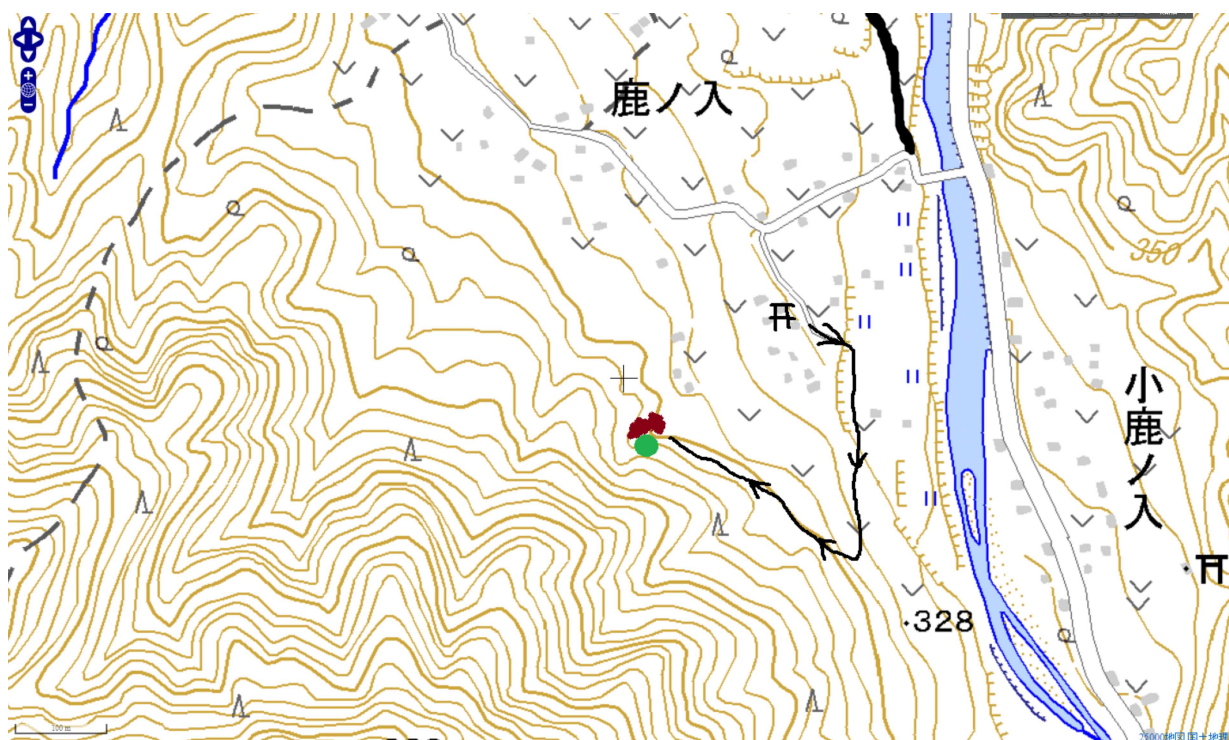


図2 図1の部分の拡大図に相当。橋を渡ってからの先に、太黒線で現在の村道を書き入れている。この少し先に駐車場がある。図1にはない、神社記号を、この図中に書き入れている。「姫宮神社」である。黄緑丸が坑口跡、茶色ベタがズリ。現地には、細黒曲線に従って、迂回していこう。神社のところから最初南下し、その後、北西方向に進むことになる。北西方向には途中まで林道があるが、その先は杉林の中を進むこととなる。防畜柵を右手に見て。



地形写真 鹿ノ入橋を渡って、道なりに進んでいくと、鹿ノ入地区の北側にある公園「西大芦フォレストビレッジ」の駐車場に達する。ここに気楽に車を置ける。Pが駐車場。

鉱山跡写真



写真1 鹿沼市中から14号を進んで来る。鹿ノ入地区に入ると、左手を流れている大芦川に橋が架かっている。鹿ノ入橋である。この橋を渡り右側に進んでいく。渡って直ぐに、公園の駐車場がある。



写真2 村道脇にある姫宮神社。
カメラは北方向を向いている。



写真3 神社から村道を道なりに歩いて行くと、右側に墓地があり、その前に農道がある。この農道に入っていく。農道を進んでいくと、林に行き当たる。右手上方に、林道が農地と林の境界に沿って延びている。



写真4 潰れた坑口跡らしい箇所の中の1つ。辺り一帯は、2月の大雪で倒木多数。



写真5 ズリ跡らしい箇所。倒木の下には厚い枯れ枝、枯れ草が積もっている。倒木の根元が掘り返されているので、マンガン鉱は見つけやすい。

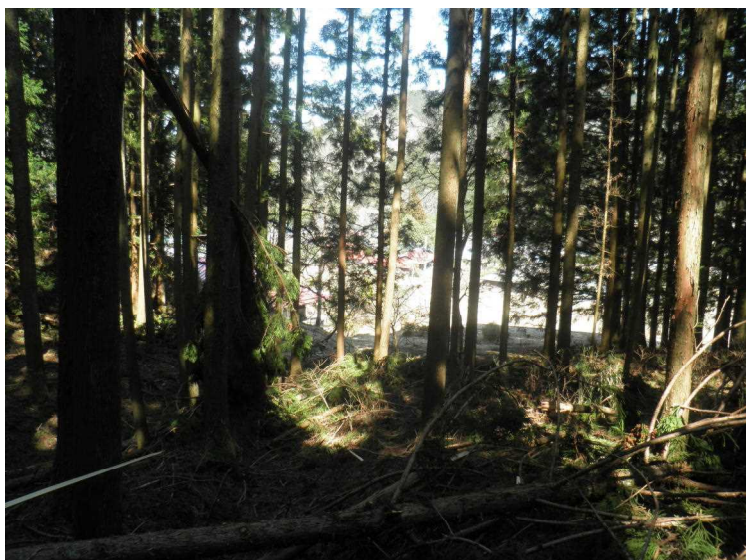


写真6 現地から大芦川の方角を見る。杉林の直ぐ先は、農地。そして民家がある。林と農地の間には、防畜柵が、左右に長く延びている。

鉱物写真



写真7 マンガン鉱であろう黒っぽく重い石をハンマーで一撃。ピンク色のばら輝石が見えた。

参考文献

- (1)「栃木県鹿沼市和田内東加蘇鉍山産バスタム石および共存マンガング酸塩鉍物」、加藤＋松原、栃木県博研報、10号、17頁～28頁、1992年。
- (2)「日本のマンガング床補遺 後編」、吉村豊文、吉村豊文教授記念事業会、563頁、1969年。